

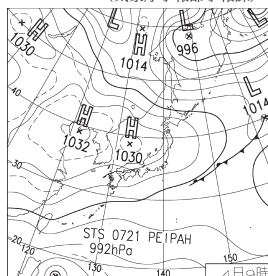
日々の天気図

— No. 70

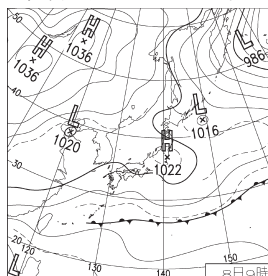
2007年11月

- ・11日～12日、低気圧により東北地方大雨。青森県平内町255 mm/24 h、岩手県洋野町種市233 mm/24 h。
- ・27日、台風23号と前線の影響で沖縄県波照間空港226 mm/24 hの降水。
- ・21日～22日、強い寒気のため24時間で青森市酸ヶ湯49 cm、岩手県西和賀町51 cmの降雪。

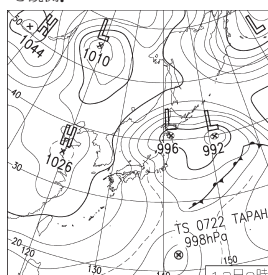
(気象庁予報部予報課)



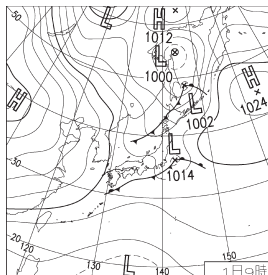
4日(日)日本付近は高気圧圏内
日本付近は、移動性高気圧に広く覆われ概ね晴れ。南西諸島は湿った空気の影響で曇りや雨。北海道弟子屈町川湯と陸別町では冷え込み厳しく、最低気温はともに-6.3℃。



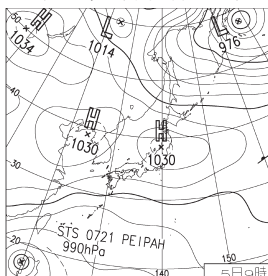
8日(木)母島で短時間強雨
本州付近は高気圧に覆われて晴天広がる。一方、前線が南西諸島から日本の南海上にかけて停滞。小笠原諸島の母島で99 mm/1hの猛烈な雨を観測。



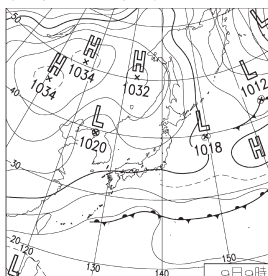
12日(月)青森県で記録的な大雨
寒気を伴った発達した低気圧の影響で、北日本～山陰で雨や雷雨。青森県平内町で255 mm/24 h(観測史上1位)、鳥取県米子市、山口県下関市等でひょう。台風第22号発生。



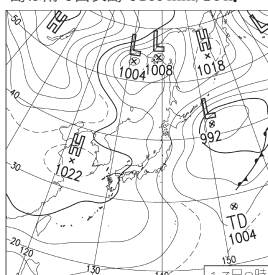
1日(木)日本付近は気圧の谷
オホーツク海の低気圧からのびる寒冷前線が北日本を通過。本州南岸には別の前線が停滞し、前線上を低気圧が東北東進。日本列島は帯状の雲域に覆われ、全国的に曇りや雨。



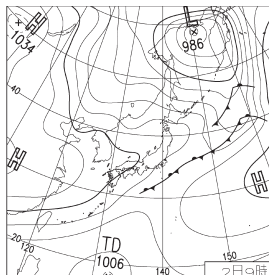
5日(月)盛岡市で初霜、初氷
日本付近は移動性の高気圧に覆われ概ね晴れ。西日本の太平洋側は海上からの東風の影響で所々雨。南西諸島は発達した対流雲がかり石垣市伊原間で52 mm/1h。



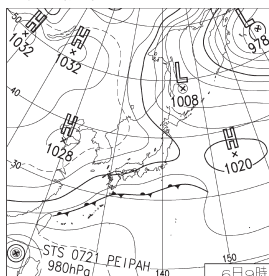
9日(金)南西諸島で激しい雨
北日本は高気圧に覆われ日本海側を中心に晴れ。海上からの北東風の影響を受けた本州太平洋側は曇りや雨の所も。前線の影響を受けた南西諸島は雨で西表島で144 mm/24 h。



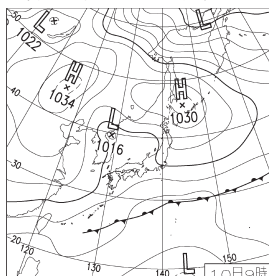
13日(火)小春日和
黄海付近の高気圧に覆われた関東以西は穏やかに晴れ。気温も20℃を超えて「小春日和」。寒気の影響が残った北陸以北はしぐれ。群馬県白砂山で平年より20日遅い初冠雪。



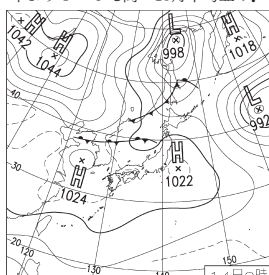
2日(金)北日本上空に寒気流入
寒気が流入したため、北海道札幌市で平年より6日遅く、寿都町で平年より4日遅く初雪を観測。東日本や東北南部は日中は曇りや雨。西日本は概ね晴れ。



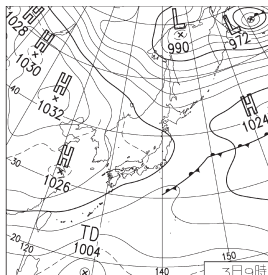
6日(火)根室市で初霜
日本の南海上に前線が停滞。本州付近は帯状の雲域に覆われて曇りや雨。北海道は晴れて根室市で平年より10日遅い初霜を観測。台風第21号は南シナ海をゆっくり西進。



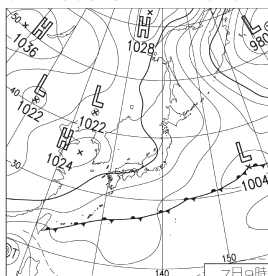
10日(土)北海道内は冷え込む
北海道は放射冷却で気温が下がり幌加内町朱鞠内で-9.8℃と12月中旬並の最低気温。網走市で初氷。一方、東日本は暖かい朝で関東・甲信は平年より5～6℃高い10月中旬並み。



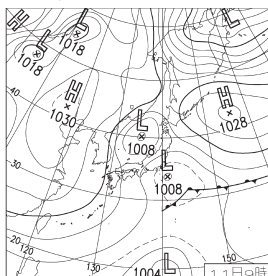
14日(水)晴天続く
関東の東海上と黄海を中心を持つ移動性高気圧に覆われ全般に晴れ。太平洋側では気温が20℃を超える。気圧の谷が通過した北海道と東北地方北部は一時雨の所あり。



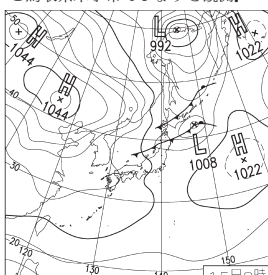
3日(土)台風第21号発生
「文化の日」は晴れの特異日。晴れの天気出現率は、札幌53%、東京・名古屋80%、仙台・大阪・鹿児島77%。この日、日本付近は移動性高気圧に覆われ東北南部から九州は晴れ。



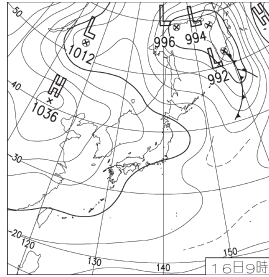
7日(水)東～西日本で秋晴れ
西からの高気圧に覆われ、日本付近は北日本の一部や南西諸島を除き概ね晴れ。北海道函館市で平年より16日遅い初氷。台風第21号は南シナ海を西進。



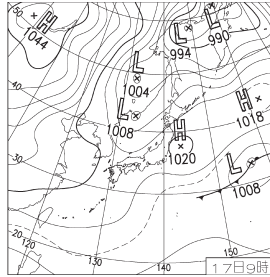
11日(日)山陰でひょう
上空に寒気を伴った低気圧が日本海を東進し、大気の状態が不安定。西日本の日本海側と北～東日本は曇りや雨となり、所により雷雨。松江市と鳥取県米子市でひょうを観測。



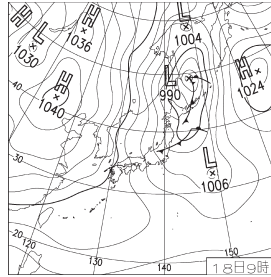
15日(木)北海道は本格的な雪
午前9時の北海道稚内市上空5,300 m付近の気温は-32.5℃。北海道内の函館、室蘭市等では平年より約2週間遅い初雪を観測。寒気が流入した午後になって所々で最低気温を観測。



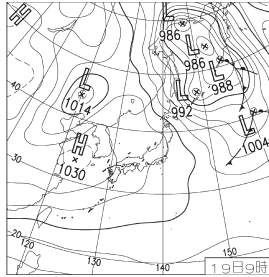
16日(金)冬の便り続々
 はじめ北日本中心に冬型の気圧配置。北日本は雪や雨、東～西日本の日本海側は曇りや雨。北日本の各地から初雪、初水、初霜、初冠雪の便り。長野県軽井沢町でも初雪を観測。



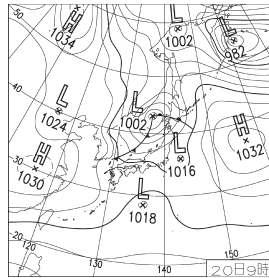
17日(土)各地で冷え込む
 日本付近に寒気が流入。北海道弟子屈町川湯で-10℃。奈良市、富山市、甲府市、水戸市、東北南部で初霜。山形県酒田市、石川県輪島市でひょう(径10mm)を観測。



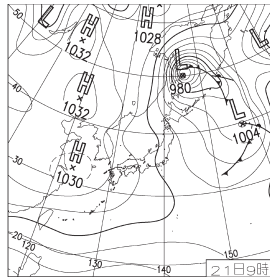
18日(日)木枯らし1号
 北日本～東日本を寒冷前線が通過し、西高東低の冬型の気圧配置。日本海には筋状雲が拡大。強い寒気の流入で、東京地方、近畿地方で木枯し1号発表。宇都宮、甲府で初水。



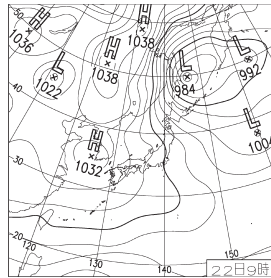
19日(月)札幌市で真冬日
 北海道稚内市上空5,000m付近には-42.5℃の寒気が流入。日中の気温は全国的に低く、札幌市で最高気温が-0.6℃と今季初の真冬日。宮崎市等九州各地で初霜や初水。



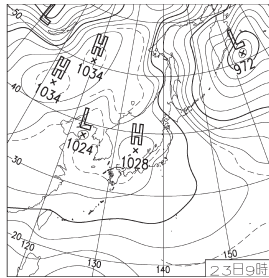
20日(火)台風第23号発生
 発達中の低気圧の影響で北陸～北日本は風が強く、秋田市で39.3 m/s、北海道根室市で34.2 m/sの最大瞬間風速を観測。北海道浦河町潮見町で直径18mmのひょう。



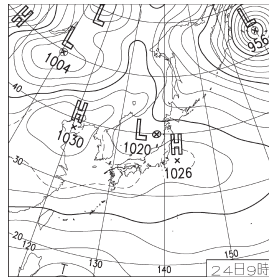
21日(水)冬型の気圧配置
 低気圧がサハリン付近で発達。東～西日本の日本海側と北日本は雨や雪、所々で雷を伴い鳥取市ではひょうを観測。山口県山口市は初霜・初水。南シナ海で台風第24号発生。



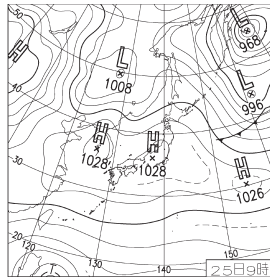
22日(木)北日本で大雪
 北海道や東北北部の上空5,100m付近に-40℃以下の寒気が流入。北日本中心に大雪と強風。青森市酸ヶ湯では最深積雪126cm。関東、東海、九州は乾燥した晴れ。



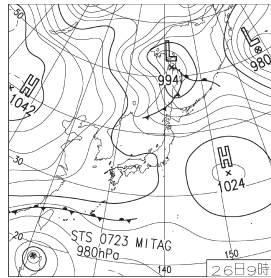
23日(金)ササラ電車初出動
 低気圧はカムチャッカの東、冬型の気圧配置は次第に弱まる。北海道や北陸以北の日本海側の降雪は小康状態。北海道十勝岳連峰で雪崩事故発生。太平洋側は乾燥した晴れ。



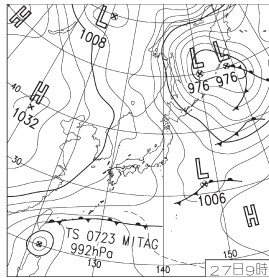
24日(土)高気圧圏内
 東日本～西日本は、関東の東と黄海を中心に高気圧に覆われ晴れ。寒気が残った北陸と北日本は雨や雪で所により雷。23日のなだれ事故で4人の死亡が確認される。



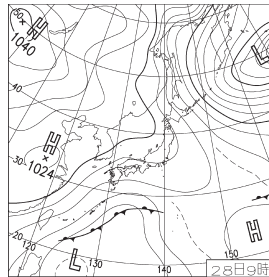
25日(日)全国的に穏やかな一日
 北海道の日本海側で曇、南西諸島で曇や雨の他は概ね晴れ。最低気温は平年並みか12月上旬並みだったが、日中は全国的に11月上旬～中旬並みの暖かさ。



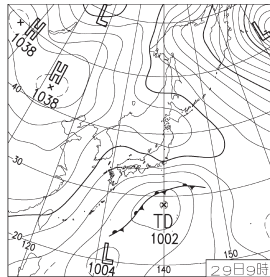
26日(月)気圧の谷
 高気圧は東の海上に抜け、北日本は気圧の谷。西～東日本は概ね乾燥した晴天も時々薄曇り。寒冷前線の南下した北日本と新潟や、停滞前線の影響を受けた南西諸島は曇りや雨。



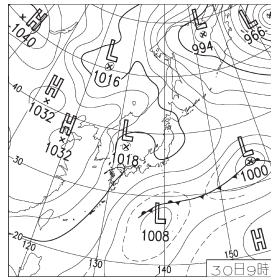
27日(火)南西諸島は大雨
 南西諸島は前線と台風第23号の影響を受け激しい雨と強風、海上はしけ。先島諸島の9地点で日降水量100ミリ以上、4官署で日最大風速20 m/s以上を観測。



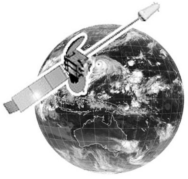
28日(水)北日本は冬型
 北日本上空には寒気が流入し、北日本の日本海側を中心に降雪続く。東日本から西日本は上空の気圧の谷の影響で曇りや雨。南西諸島は停滞前線の影響で雨。



29日(木)東日本は寒い一日
 高気圧が北から張り出し、本州南海上に前線と熱帯低気圧。北日本は概ね晴れ。東日本以西は曇りで東海・関東南部の一部で雨。東京の日中の最高気温は1月上旬並の10.4℃。

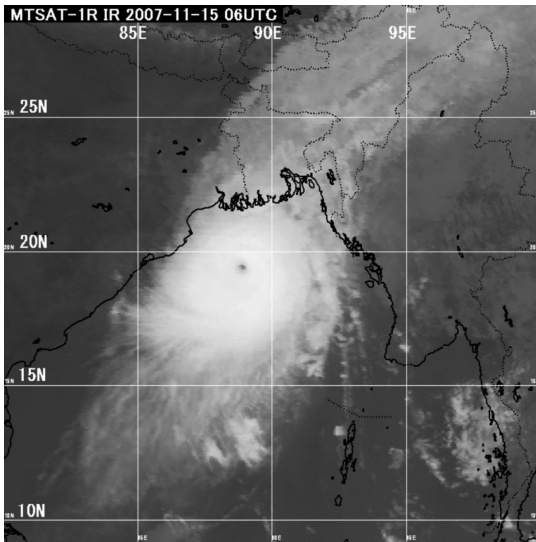


30日(金)各地から紅葉の便り
 紀伊半島東部から関東は曇や雨。その他は概ね晴れ。青森市で初霜、平年より38日遅く極値更新。各地からイロハカエデ、イチヨウの紅葉の便り。

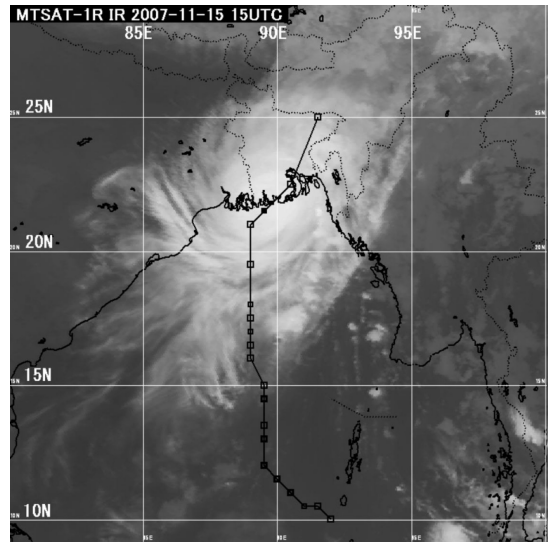


今月のひまわり画像—2007年11月

サイクロン・SIDR (シドル)



2007年11月15日15時（日本時間）の赤外画像



2007年11月15日24時（日本時間）の赤外画像

2007年11月15日にバングラデシュを襲ったサイクロン・SIDR（シドル）は、死者・行方不明者4000人以上、被災者800万人以上という非常に大きな被害をもたらした。左図はシドルの最盛期、右図は上陸直前の赤外画像で、最盛期には明瞭な「眼」が解析でき発達している様子がわかる（右図の実線はシドルの経路：RSMC*ニューデリーの速報値による）。

シドルは12日にベンガル湾（10.5N，91.0E付近）で発生し、その後急速に発達しながら北に進み、加速しながら最盛期の状態で15日夜（日本時間16日02時）、バングラデシュ南部のパタルガタ付近に上陸し、同国を縦断後急速に衰弱し、16日に消滅した。

最盛期の勢力は、中心気圧944 hPa、最大風速（1分間平均）69 m/s（RSMCニューデリーの速報値による）で、ハリケーン・カトリーナの中心気圧902 hPa、最大風速（同）75 m/sと比べると、カトリーナよりは少し規模の小さな熱帯じょう乱であったと言える。

ベンガル湾では、日本の「台風」（10分間平均最大風速17.2 m/s以上）クラスのサイクロンは年平均3

個程度しか発生せず、シドルと同じ階級（Very Severe Cyclonic Storm：10分間平均最大風速32.7 m/s）まで発達するものは年平均1個程度しかない。

バングラデシュではサイクロンにより1970年に約30万人、1991年にも約14万人もの死者を出している。

このため現地では、過去の被害を教訓に「警報プログラム（無線による通報システムとボランティアがハンドマイクで住民に警戒を呼び掛けるシステム）」の整備が進んでおり、また国際協力で沿岸部を中心に「サイクロン避難シェルター（500～2000人収容できる3階建の建物）」が約2000カ所設置されていた。それにもかかわらず被害が大きくなった理由としては、シェルターの絶対数が足りず、また古くなって十分機能しないものがあったこと、9月にインドネシアで起こった大地震の際の津波警報が結果的に空振りとなり、避難した住民の家畜や家財が盗まれた経験が住民に避難を躊躇させたこと、などが挙げられている。

（RSMC：Regional Specialized Meteorological Centers 地域特別気象中枢）
（気象庁予報部予報課 西村修司）